

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成29～令和元年度:計画作成主体:最上町農業振興協議会)(山形県)

取組の概要

- 対象品目 : 露地野菜(ねぎ)
(産地面積8.2ha)
- 主な取組主体 : もがみ中央農業協同組合
東部営農センターねぎ部会
- 成果目標 : 総販売額の10%以上の増加
基準(H28年度) 64,230千円
目標(R3年度) 85,813千円
- 導入施設等 : 生産支援事業(機械リース:収穫機、根・葉切皮むき機、選別機)



山形県
最上町
最上町全域

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

地域の主要品目である、ねぎの更なる生産量の拡大には、手間のかかる収穫・調整作業の省力化が必要である。

そのため、収穫作業機械等を整備し、効率的な作業体系を構築することで、産地規模拡大により地域ブランドを確立し、農業者の所得向上を目指す



【産地の体質強化に向けた方策】

- ① 収穫機の導入により収穫作業の効率化を図り、生産規模拡大と低コスト化を実現する。また、適期収穫を実現することで品質向上に注力し、安定供給の産地形成を推進する。
- ② 選別機の導入により、自動的に正確な選別作業が可能となり、作業効率を高め、出荷量を増加させる。
- ③ 根・葉切皮むき機の導入により、根切り、皮むきの自動化を図り、効率的な調整・出荷作業を実現する。

産地体制

- ・山形県最上総合支庁 農業技術普及課 農業振興課
- ・最上町
- ・JA新庄もがみ (JAおいしいもがみ)

指導・助言

- ・取組主体と協議会、行政やJAとの情報共有(取組状況、販売等)

最上町農業振興協議会

- ① 計画の策定・管理
- ② 取組計画への助言

情報共有

取組主体

- ① 取組計画の作成
- ② 取組実施 等

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・若手ねぎ農家向けの研修会を開催し、意見交換や栽培技術研修を通して、産地品質の高位平準化を企図

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ・収穫、出荷作業の省力化、自動化により、高品質な出荷物の安定供給を実現

【事業実施による間接効果】

- ・安定出荷による販売力の強化

総販売額が
34.1%増加
(達成率101.5%)

